

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大阪府 堺市

自治体名：大阪府堺市

担当課名：学校保健体育課

電話番号：072-340-0316

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	149.83 km ²
人口	805,800 人
公立中学校数	43 校
公立中学校生徒数	19,921 人
部活動数	376 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

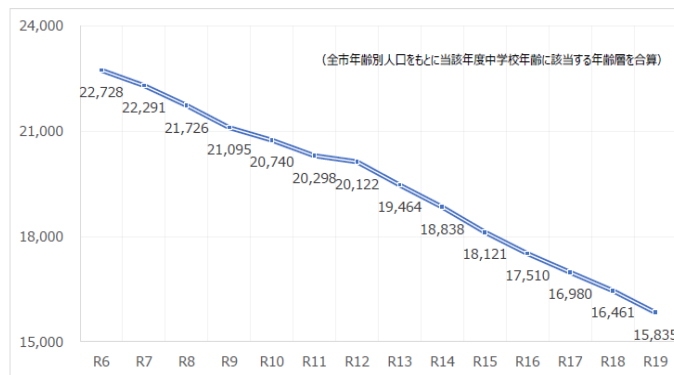
本市には中学校が43校あり、生徒数は2万人弱であるが、年齢別人口（令和6年5月末現在）をもとに中学校在籍年齢（13歳～15歳）に該当する年齢層を試算した（図1参照）ところ、本市においても、全国的な傾向と変わらず、人口は減少傾向にあることが明確となった。このことから、学校単位での部活動が維持できなくなり、今後は部活動数の維持が困難になると予想される。

また、令和6年度市内中学校に設置されている部活動数は、運動部と文化部を合わせて564部活動であり、部員数は15,508人、入部率は77.9%である（図2参照）。大多数の生徒が何らかの部活動に取り組んでいるが、その部活動を指導する中学校の教職員の勤務時間外在校等時間が最も長く、また、令和6年度ひと月の勤務時間外在校等時間が80時間を超える教職員はほぼ中学校であることがわかった（図3参照）。今後、顧問を担う中学校教職員の部活動に関する働き方改革が求められる。

率77.9%である（図2参照）。大多数の生徒が何らかの部活動に取り組んでいるが、その部活動を指導する中学校の教職員の勤務時間外在校等時間が最も長く、また、令和6年度ひと月の勤務時間外在校等時間が80時間を超える教職員はほぼ中学校であることがわかった（図3参照）。今後、顧問を担う中学校教職員の部活動に関する働き方改革が求められる。

【課題】

現状のままでは学校部活動の持続が困難になることから、学校部活動の教育的意義や良さ等を継承しつつ、子どもや保護者・教職員のニーズを反映させた部活動地域連携・地域移行を進めること。



(図1：堺市中学校在籍年齢（13歳～15歳）)

	部員数	入部率	部活動数
運動部	10,888 人	54.7%	376 部
文化部	4,620 人	23.2%	188 部
合計	15,508 人	77.9%	564 部

(図2：市内中学校に設置されている部活動数)

校種	ひとり当たりの年間時間外在校等時間（平均値）	ひとり当たり（平均値）	ひとり80時間超教職員数（年間960時間超）
幼稚園（38人）	306時間12分	25時間31分	0人
小学校（2,789人）	356時間24分	29時間42分	4人
中学校（1,583人）	509時間12分	42時間26分	89人
高等学校（110人）	245時間12分	20時間26分	0人
支援学校（235人）	246時間00分	20時間30分	0人
全体（4,755人）	399時間36分	33時間18分	93人

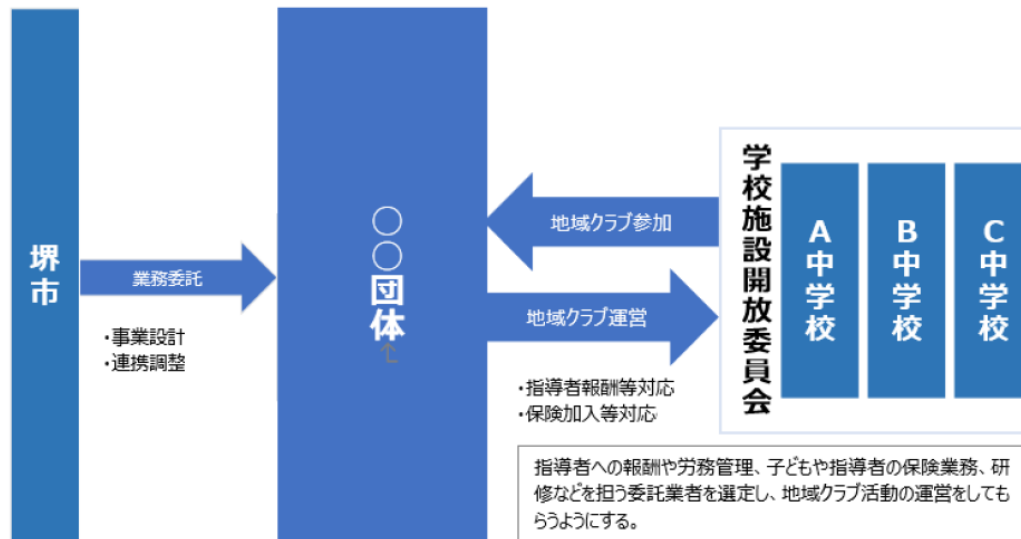
(図3：令和6年度ひと月の勤務時間外在校等時間)

出典：堺市立中学校における部活動地域連携・地域移行の取組状況等報告書

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校保健体育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携など
- ・地域教育振興課…学校開放事業にかかわる諸対応
- ・総務課…予算措置など

◎首長部局

- ・スポーツ推進課…総合型地域スポーツクラブとの連携

年間の事業スケジュール

令和6年4月	・総括コーディネーター任用 ・拠点校部活動開始
令和6年5月	・地域クラブモデル校説明実施
令和6年6月	・第4回庁内委員会開催
令和6年7月	・第5回庁内委員会開催
令和6年8月	・地域クラブモデル校保護者説明会開催 ・トレーナー等指導事業開始
令和6年9月	・地域クラブモデル事業開始 ・連絡ツール導入
令和6年10月	・第6回庁内委員会開催 ・取組状況等報告書策定 ・ボウリング指導イベント開始
令和6年11月	・サッカー指導教室実施
令和6年12月	・第7回庁内委員会開催
令和7年1月	・堺市立中学校スポーツ・文化芸術活動シンポジウムの開催 ・地域クラブモデル校アンケート実施
令和7年3月	・第8回庁内委員会開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	7校	実施した地域クラブ総数	9クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		9クラブ（9部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	1人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
堺市立殿馬場中学校地域クラブ	民間	・軟式野球 ・女子バスケ トボール	毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：12人 2年：13人	R6.9- R7.2	学校グラウンド& 体育館	6人	1人 (内、兼務1人)	なし	部活動
堺市立大浜中学校地域クラブ	民間	・女子ソフト テニス	毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：5人 2年：12人	R6.9- R7.2	学校グラウンド	2人	1人 (内、兼務1人)	なし	部活動
堺市立鳳中学校地域クラブ	民間	・軟式野球	毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：13人 2年：14人	R6.9- R7.2	学校グラウンド	7人	1人 (内、兼務1人)	なし	部活動
堺市立浜寺中学校地域クラブ	民間	・軟式野球	毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：4人 2年：5人	R6.9- R7.2	学校グラウンド	3人	1人 (内、兼務1人)	なし	部活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	7校	実施した地域クラブ総数	9クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		9クラブ（9部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	1人

②主なクラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
堺市立浜寺南中学校地域クラブ	民間	・軟式野球	毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：4人 2年：7人	R6.9- R7.2	学校グラウンド	3人	1人 (内、兼務1人)	なし	部活動
堺市立五箇荘中学校地域クラブ	民間	・女子バレーボール	毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：10人 2年：13人	R6.9- R7.2	学校体育館	3人	1人 (内、兼務1人)	なし	部活動
堺市立庭代台中学校地域クラブ	民間	・陸上 ・女子バスケットボール	毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：14人 2年：12人	R6.9- R7.2	学校グラウンド& 体育館	6人	1人 (内、兼務1人)	なし	部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 日本製鉄堺プレイザーズによるバレーボール教室
- セレッソ大阪によるサッカー教室
- (株) ラウンドワンジャパンによるスポーツボウリング教室

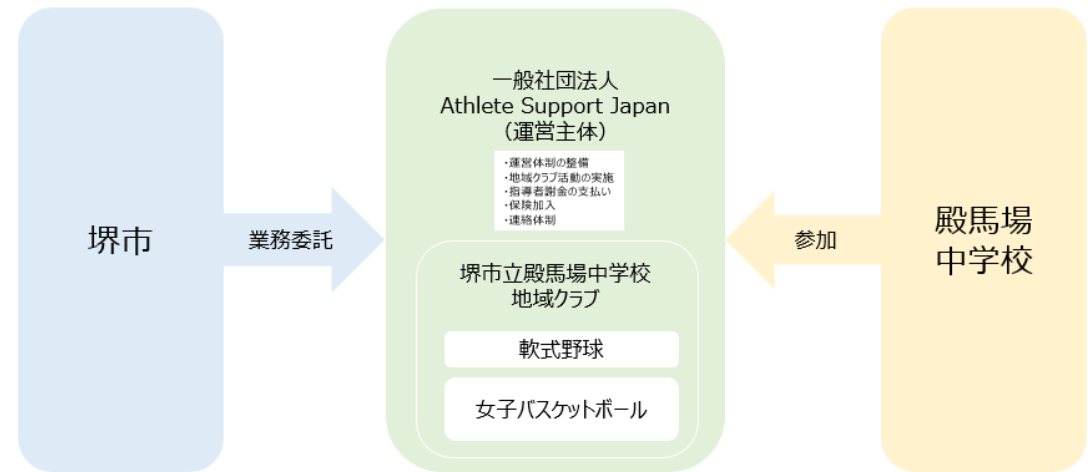
2.実証内容と成果

主な取組例

● 堺市立殿馬場中学校地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	・軟式野球 ・女子バスケットボール
運営団体名	一般社団法人 Athlete Support Japan
期間と日数	・軟式野球：9月1日～2月8日 月1～2回程度 ・女子バスケットボール： 9月1日～2月8日 月1～2回程度
指導者の主な属性	民間会社社員、兼職兼業教職員
活動場所	学校グラウンド&体育館
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 指導員 30人
役割：生徒への指導等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

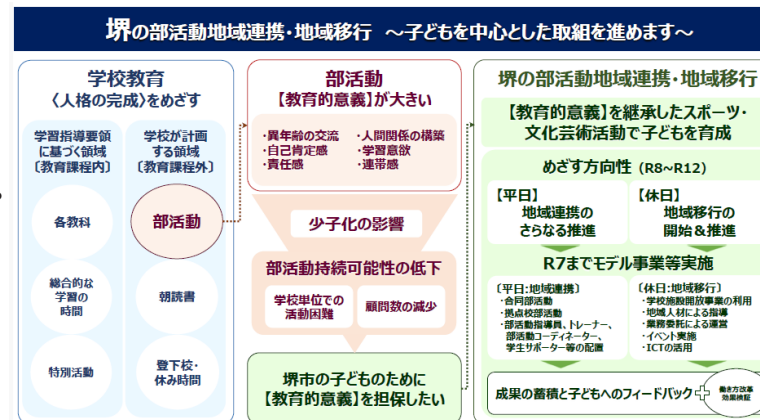
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 企画担当1名、研修担当1名、事務担当1名として、合計3名の統括コーディネーターを配置し、体制整備の指導助言等を行う。
- 運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

- 企画担当総括コーディネーター配置により、担当指導主事等が企画立案した取組事項について、総論的な視点で指導助言を受けることができた。また、**取組状況等報告書やめざす方向性の作成**に際して何度も相談することができた。
- 研修担当総括コーディネーター配置により、地域クラブ指導に従事する指導者等に対する**動画研修資料を作成**することができた。また、「堺クオリティ」と称する人材育成研修のあり方等について検討を進めることができた。
- 事務担当総括コーディネーター配置により、本事業にかかわる業務遂行、委託業者や学校との連絡調整、生徒等への**アンケート実施及び集計**について、円滑に行うことができた。



出典:堺市ホームページ

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・令和6年度に実施した4回の庁内委員会に参加した。
- ・取組状況等報告書の作成に携わった。
- ・モデル実施校の説明会、練習等を巡回し、指導助言を行った。

今後の課題と対応方針

- 総括コーディネーターについては、引き続き**「企画」「研修」「事務」**の3つの部門で配置する予定である。
- 運営団体・実施主体の整備は今後も関係団体と調整していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・指導者に対して、資質向上のための研修をモデル事業開始前に実施。(堺市部活動ハンドブックを活用)
- ・地域クラブ指導に従事する指導者等に対する動画研修資料を作成。
- ・人材育成の仕組みや内容、技術等指導力等について段階に応じた研修体系 (**堺クオリティ**) の検討を開始。

地域クラブ指導者数

30人

登録者属性

教員	22人
会社員	3人
部活動指導員	1人
プロ選手	4人

種目

- ・軟式野球
- ・バスケットボール
- ・ソフトテニス
- ・陸上
- ・バレーボール

協力団体

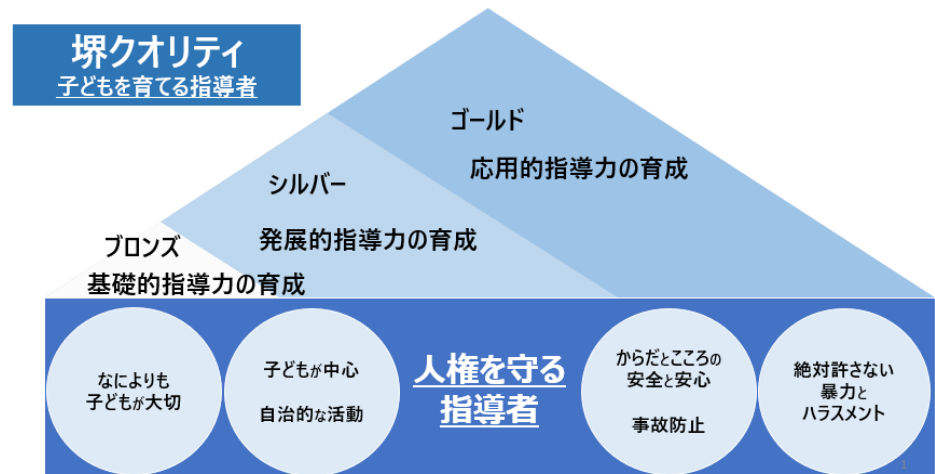
- ・一般社団法人 AthleteSupportJapan
- ・(株) JFFシステムズ
- ・堺シュライクス

指導者資格要件

- ・部活動の指導に足る資格を有する者
- ・部活動の指導者に足る資格に準じた研修を修了した者
- ・指導を行うのに十分な知識や技術を有している者

取組の成果

- ・指導者30名を確保した
- ・指導者に対して、堺市部活動ハンドブックを活用した資質向上のための研修をモデル事業開始前に実施した。
- ・令和5年度に**イベント**として実施した「軟式野球指導教室」を**きっかけ**として、令和6年度は地域クラブの**指導者を依頼**することができた。
- ・地域クラブ指導に従事する指導者等に対する**動画研修資料**を作成することができたので、今後活用していく。



出典:堺市立中学校における部活動地域連携・地域移行の取組状況等報告書

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

○基礎研修（全員必須）

【趣旨・目的】

・地域スポーツ・文化活動の指導員としての基礎的知識及び生徒への指導のためのノウハウの習得

【内容】

・「ハンドブック-部活動を指導するにあたって-（堺市中学校体育連盟・堺市教育委員会・堺市立中学校長会）」の遵守、本事業趣旨、学校との分担・連携、指導者の役割、生徒との接し方、体罰等の防止、安全管理、人権に関すること等

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 令和6年8月19日（月）～9月22日（日）
- ・開催回数： 期間中に1回
- ・参加人数： 30人（全員必須研修）

受講者の声

○参加した地域クラブ指導者の声

「はじめて中学生を指導することになったのでハンドブックの記載内容は大いに参考になった。」

「勝利至上主義ではなく、子どもたちの健全な心身の発達のために練習を行うということが大切であると理解した。」

「教員の立場であったが、改めてハンドブックを読んで再認識することがあった。」

今後の課題と対応方針

- 今後も、イベントを実施することによる指導者や民間企業等の**さらなる発掘や広報活動**を推進していく。
- 指導者は人権を守るというセーフガーディングポリシーのもと、人材育成の仕組みや内容、技術等指導力等について段階に応じた研修体系を構築することで、指導する際に必要となるライセンスの認定を行う「**堺クオリティ**」と称する制度を立ち上げていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 〈イベント〉日本製鉄堺ブレイザーズによる「バレーボール教室」(公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団事業)
- 〈イベント〉セレッソ大阪による「サッカー指導教室」
- 〈イベント〉(株)ラウンドワンジャパンによる「スポーツボウリング教室」
- 〈指導者派遣〉一般社団法人AthleteSupportJapanのトレーナーを部活動指導者講習会に派遣
- 〈指導者派遣〉(株)ルネサンスのトレーナー等を中学校に派遣
- 〈会場提供〉ららぽーと堺スタジアムコートを使用したトレーニング活動
- 〈大学等連携〉関西大学及び大阪リゾート&スポーツ専門学校と連携したアスレティックトレーナーによる指導



出典：(株)ラウンドワンジャパン作成チラシ



出典：ららぽーと堺スタジアムコート概要



出典：セレッソ大阪サッカー指導教室

取組の成果

- 「**堺市の資源活用**」というキーワードのもと、**堺市にゆかりのある**民間企業等を中心に連携を強化したイベントや指導者講習会を実施することができた。
- イベントについてはいずれも公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団、スポーツ推進課と綿密に連携調整を行ったうえで、安全・安心のもと実施することができた。生徒のアンケート結果もほとんどが肯定的なものであった。
- イベントを実施することで部活動地域連携・地域移行について生徒・保護者・教職員・市民・関係団体に対して広く周知することができた。

今後の課題と対応方針

- 今後もイベントを実施することによる指導者や民間企業等のさらなる発掘や広報活動を推進していく。
- トレーナー等による指導の持続可能性について検証していく。
- 受益者負担**を徴収した「ボウリング教室」の実績をもとに費用のあり方を検証する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○放課後に、部活動や習い事など様々な過ごし方をしているこどもの立場から、子ども自身が「魅力を感じるスポーツや文化芸術活動」や、今取り組んでいることで「充実している点やもっとこうしてもらいたい点」などを話し合ってもらい、部活動地域連携・地域移行事業にこどもの意見を反映することを目的として **堺市立中学校スポーツ・文化芸術活動シンポジウムinららぽーと堺～子どもがスポーツ・文化芸術活動に求めるもの～**を開催した。

活動の詳細			
参加人数	6人	指導者数	2人（総括コーディネーター）
属性	○パネリスト：堺市立中学校の生徒6人（全中学校に公募） ○コーディネーター：関西大学 人間健康学部 教授 神谷 拓 ○総括：桃山学院教育大学 人間教育学部 教授 中村 浩也		
具体的な内容	○こどもの声を聴く重要性について（神谷教授） ○パネルディスカッション ○総括（中村教授）		
こどもの声	<ul style="list-style-type: none"> ● 色々な場面でワクワクしたい！（文化活動を楽しむ権利） ● 友だちとおしゃべりをしたい！（みんなで集まって交流する権利） ● 困ったときに大人に助けてほしい！話を聞いてほしい！（適切な指導や援助を受ける権利） ● 練習の内容や役割分担を決める時に話を聞いてほしい！（自分たちで活動をつくる権利） ● ケガをしたくない・体調を崩したくない！（安全な環境で活動をする権利） ● 充実した施設で活動をしたい！（スポーツをする条件整備を求める権利） 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回のシンポジウムは、堺市の現役中学生から「生の声」を聴くという、先進的で時節にあった取組であった。 ● 部活動でワクワクできることは、今後も大切にしたいといけない。勝ち負け以外にも、互いに分かり合えたり感動したりした時、そして友達との約束を想像した時にもワクワクできる。 		
運営経費	・53,000円（謝礼金） ・会場は無償提供		



出典：堺市立中学校スポーツ・文化芸術活動シンポジウムinららぽーと堺～

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容


●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

①**複数の種目を実施**できるよう、誰でも参加できる地域スポーツクラブ活動を実施するための試行段階として、1つの地域クラブに複数の種目を登録した活動を展開した。（殿馬場中、庭代台中）

②令和5年度にイベントで指導者の派遣を依頼した「**堺シュライクス**」のプロ選手に地域クラブの指導者として従事依頼した。また、その際の活動は、今後の少子化対策を見据えて3つの地域クラブを合同（**拠点校型**）で実施した。（鳳中、浜寺中、浜寺南中）

活動の詳細

参加人数	①合計51人	②合計47人	指導者数	①合計12人	②合計13人
指導者属性	①教員8人、会社員3人、部活動指導員1人 ②教員9人、プロ選手4人				
具体的な内容	①1つの地域クラブに複数の種目を登録した活動 ・殿馬場中：軟式野球、バスケットボール ・庭代台中：陸上、バスケットボール ②今後の少子化対策を見据えて3つの地域クラブを合同（拠点校型）で実施 ・実施種目：軟式野球				
こどもの声	①1つの地域クラブに複数の種目を登録した活動 ● 普段の活動と比べても違和感なく活動できた。 ● 専門性の高い指導者に教えてもらえてうれしかった。 ②今後の少子化対策を見据えて3つの地域クラブを合同（拠点校型）で実施 ● 他校の人と一緒に練習するのはとてもいい刺激になる。 ● いつも人数が少ないのでできないような練習ができたのがよかった。				
関係者の声	● 大きな混乱等なく実施できた。 ● 中学生に指導するのは思っていたよりも難しかった。				
運営経費	<ul style="list-style-type: none"> 委託料予算：3,100,000円 学校施設は無償提供（学校施設開放事業） 				

出典：地域クラブ活動（合同（拠点校型））

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

〈成果〉

- ①1つの地域クラブに複数の種目を登録した活動
- すべての実施日において滞りなく実施できた。
- ②今後の少子化対策を見据えて3つの地域クラブを合同（拠点校型）で実施
- 合同（拠点校型）実施のノウハウを得ることができた。

〈アンケート〉

- アンケート結果は令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業事務局が実施した「**地域クラブ活動に関する意識調査**」において提供される結果をもとに検討する予定である。

今後の課題と対応方針

- 堺市立中学校スポーツ・文化芸術活動シンポジウムinららぽーと堺は初の試みであったが、ありのままのこどもの声が聞けたことが成果である。これからも、**こどもが「思い」や「願い」を発言・表明できる機会**を積極的に創出していく予定である。



出典：地域クラブ活動（複数の種目を登録）

- 令和5年度にイベントとして実施した「軟式野球指導教室」をきっかけとして、令和6年度は「堺シュライクス」に地域クラブの指導者を依頼することができた。このことは内容の充実に大いに成果をもたらした。
- 今後も「**堺市の資源活用**」というキーワードのもと、**堺市にゆかりのある民間企業等**を中心に連携していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 学校施設開放事業において地域クラブ活動を登録し無償で学校施設を使用
- 地域教育振興課と連携し、学校施設開放運営委員会委員長への説明及び堺市立学校の施設開放に関する規則の改正を行ったうえで、地域クラブ活動の登録をした。

取組の成果

- 「**学校施設開放事業を活用すること**」が本市として最も工夫した点である。これにより、学校部活動の団体を「地域クラブ活動」として登録し、無償で学校施設を利用することができるようになった。
- 生徒は普段の学校部活動と同じ活動場所で練習できるとともに、保護者も安心して通わせることができたと考える。
- とくに、五箇荘中学校においては昨年度に引き続き**小学校施設**（体育館）を活用したモデルを展開することで、活動場所の広がりや参加する対象者の拡大などについて検討することが可能となった。



出典：地域クラブ活動（学校施設開放事業）

今後の課題と対応方針

- 支柱やネットなどの備品は学校部活動と共用で使用できるが、ボールなど消耗品は学校施設開放利用団体として準備が必要である。
- 学校を使用しているため地域クラブ活動との線引きがあいまいになる。
- 今後登録団体数を増やしていく予定である一方、業務委託先の選定などについて検討する必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 令和6年度の地域クラブ活動は7校9部活動で実施した。(R5比：**3校5部活動増**)
- 全地域クラブにおいて定められた回数の練習を実施することができた。また、大きな事故やトラブルの報告はなかった。
- 1つの地域クラブに複数の種目を登録した活動や、今後の少子化対策を見据えて3つの地域クラブを合同(**拠点校型**)で実施することにも取り組むことができた。
- 総括コーディネーター**と連携した活動ができた。
- 学校施設開放事業**については安定して活用できることが確かめられた。
- 地域クラブ指導に従事する指導者等に対する**動画研修資料**を作成することができた。
- 「堺市の資源活用」というキーワードのもと、**堺市にゆかりのある民間企業等**を中心に連携を強化したイベントや指導者講習会を実施することができた。

●成果の評価

- 年度当初に計画したもののうち、総括にまとめたものはおおむね順調であったが、計画したもののうまいかなかったものもあった。
- 本市では保護者連絡ツール「tetoru」を導入しており、部活動で連絡用で使用している実態があるが、地域クラブ指導者や他校の保護者には使用できないため、地域クラブ用の連絡ツール「Clu-ft」を試験的に導入した。しかし、参加者の大多数が学校関係者であったため「tetoru」で対応できることが多く、実質「Clu-ft」の需要が高まらなかった。
- 「Clu-ft」には動画保存機能があり、生徒のフォーム練習などの様子を撮影した動画を大学生らに分析してもらい、フィードバックすることで、顧問の指導支援や生徒のスキルアップ等に活用する取組を企画したが、あまり活用されなかった。

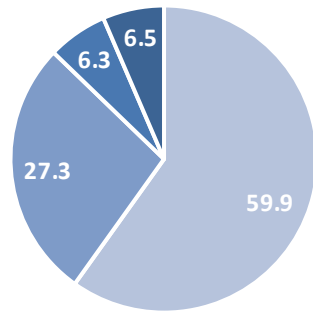
●今後に向けて

- 地域クラブへ移行する手立ての確立に向けて2年間試行実施をしてきてきた中で、学校施設開放事業を活用した取組は効果的であることが確かめられてきた。
- 今後は地域クラブへ移行する種目を休日の活動状況に応じて精選し、少子化やこどものニーズに応じた地域クラブの集約化・拠点化のあり方について検証していく。
- 連絡ツールの活用方法について今年度の経験を活かしてさらに検討しく。
- 参加費用負担の支援等について検証ができる取組を計画する。
- 部活動のあり方についての多面的に検討し、整理を進めていく。

アンケート結果・参加者の声

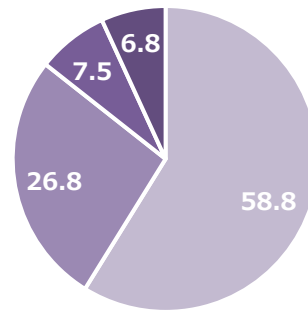
●アンケート結果（トレーナー等による指導）

Q.トレーナー等による指導はどうでした？



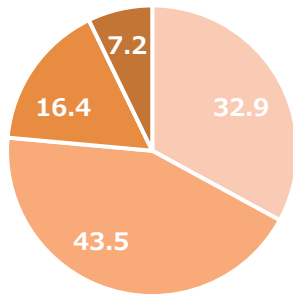
- 楽しかった（学ぶことが多かった）
- どちらかといえば楽しかった（学ぶことが多かった）
- どちらかといえば楽しくなかった（学ぶことは少なかった）
- 楽しくなかった（学ぶことは少なかった）

Q.今後に活かすことができそう？



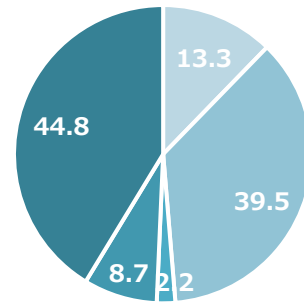
- 活かすことができそう
- どちらかといえば活かすことができそう
- どちらかといえば活かすことはできそうもない
- 活かすことができそうもない

Q. トレーナー等に協力してもらいたい？



- 部活動に協力してほしい（来てほしい）
- どちらかといえば部活動に協力してほしい（来てほしい）
- どちらかといえば部活動に協力しなくてよい（来てほしくない）
- 部活動に協力しなくてよい（来てほしくない）

Q.習ったことを家でやっている？



- 個人的に毎日している
- 個人的に週1回程度している
- 部活で毎日している
- 部活で週1回程度している
- ほとんどしていない

●参加者の声

中学1年生

靴ひもの結び方など普段は意識していないようなことを教えてもらうことができた。片足で立ちやすくなったり、足が軽く感じた。

中学2年生

スクワットでこれから活用できそう。身体の動かし方が分かった。体が動きやすくなった。一定の位置で立つことができた。

校長

トレーナー等が複数の部活動をまとめて指導してくれるので、顧問である教員の多くが他の業務に従事できるようになった。働き方改革につながる取組と考える。

トレーナー

普段スポーツクラブの会員へ指導しているのとは異なることが多く、参加している生徒のパフォーマンス向上につながる方法を模索し、検討を重ねながら取組ができたので、勉強になった。

アンケート結果・広報資料

①「子どもを中心とした取組を進める」という観点から、堺市立中学校スポーツ・文化芸術活動シンポジウム「～子どもがスポーツ・文化芸術活動に求めるもの～」を初開催するための周知チラシを作成した。

②「堺市の資源活用」というキーワードのもと、堺市にゆかりのある「セレッソ大阪」に指導イベント実施を依頼した。5校から70名（1,2年生）の参加があり、セレッソ大阪から3人のコーチが派遣された。

参考資料

**堺市立中学校スポーツ・文化芸術活動シンポジウム in ららぽーと堺
～子どもがスポーツ・文化芸術活動に求めるもの～**



本シンポジウムは堺市の部活動地域連携・地域移行において、「子どもを中心とした取組を進める」という観点からこの場はじめて開催するものです。放課後に部活動や習い事など、様々な過ごし方をしている子どもたちから、「魅力を感じるスポーツや文化芸術活動」や、今取り組んでいることで「充実している点やもっとこうしてもらいたい点」などを話し合ってもらい、部活動地域連携・地域移行事業に子どもの意見を反映することを目的としています。これからは、子どもが「思い」や「願い」を発言・表明できる、こうした機会を積極的に創出します。

・日時：令和7年1月27日（月）15:50～17:20（予定）
・会場：ららぽーと堺 1F Fansta XROSS STADIUM
<https://mibai-shopping-park.com/1stfloor/sakai/access/>
※座席に限りがありますが一般の方も観覧は自由です

○パネリスト：堺市立中学校の生徒6名
○コーディネーター：関西大学 人間健康学部 教授 神谷 拓
○総括：桃山学院教育大学 人間健康学部 教授 中村 浩也



○タイムテーブル

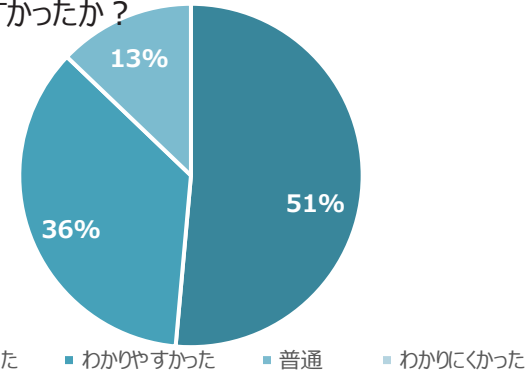
15:30	15:50	16:00 (60分)	17:00 (20分)	17:20
会場受付	開場主催 〔市教委〕	パネルディスカッション 堺市立中学校の生徒6名 関西大学 人間健康学部 教授 神谷 拓	総括 桃山学院教育大学 人間健康学部 教授 中村 浩也	閉会 〔市教委〕

問い合わせ先：堺市教育委員会事務局学校保健体育課 TEL:072-340-0316 Email: gakujoyo@city.sakai.lg.jp

【市民等への周知広報チラシ】

出典：堺市ホームページ

Q.指導はわかりやすかったか？



●参加者の声

- ・部活ではできない基礎の練習ができてよかった。
- ・この活動はこれからも続けていけばいいと思う。別のチームにもしてあげてください。
- ・最初の鬼ごっここの時にすぐ疲れてしまったので体力をつけたいと思った。
- ・トラップの意識を変えるだけで変化が自覚できるくらいうまくなったと思う。
- ・練習の質が高くてとても難しかったけど楽しかった。
- ・他校の人とゲームをしてみて強い人がたくさんいました。楽しかったです。

【アンケート結果】

出典：生徒アンケート結果

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【堺市立大浜中学校地域クラブ（ソフトテニス）】



【セレッソ大阪サッカー指導教室】



【トレーナー等指導inらぽーと堺】



【アスレティックトレーナー指導】



【スポーツボウリング】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

・検討開始

・学校開放利用
検討
・モデル校選定
開始

令和5年

・アンケート実施
及び分析

・地域クラブ活動
開始
・庁内委員会設
置

令和6年

・取組状況等報
告書策定
・シンポジウムの
開催

令和7年

・部活動のあり方
を多面的に整理

●ステークホルダー

・学校保健体育課、地域教育振興課、
スポーツ推進課

●経過

・R4.6月～関係課打合せ

●実施にあたって生じた課題

・どう進めていくのかという見通しや主担と
なる課が定まらない中で会議を行ったた
め、議論の空転が生じた。

●実施内容、工夫した点 等

・R4.8月～学校保健体育課が主担とし
て見通しやビジョンを作成した。
・原案を基に関係課が意見交流して見
通し等案を作成した。
・胸襟を開いて会議を続けたので関係性
が構築できた。

●ステークホルダー

・学校保健体育課、地域教育振興課、
教育委員会総務課、スポーツ推進課、
文化課、各モデル校及び委託業者

●経過

・R5.10～モデル事業開始

・R5.12～庁内委員会設置

●実施にあたって生じた課題

・モデル実施日が決まらなかったり必要
な書類がなかなか提出されないことが
あった。

・庁内委員会に諮る内容や資料の原
案作成に苦慮した。

●実施内容、工夫した点 等

・モデル校と委託業者の仲介役としてさ
まざま対応した。

●ステークホルダー

・市長部局、総括コーディネーター

●経過

・R6.10～取組状況等報告書策定

・R7.1～シンポジウムの開催

●実施にあたって生じた課題

・取組状況等報告書とめざす方向性の
発出やシンポジウム開催は本事業とし
てはじめて広く市民等に周知するもの
であることから、内容等について何度も
確認点検がなされた。

●実施内容、工夫した点 等

・総括コーディネーターにそれぞれの担当
で専門的な知見等から指導助言を
受け、内容を充実させた。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

堺の部活動地域連携・地域移行 ～子どもを中心とした取組を進めます～

